



平成 23 年 4 月 21 日

各 位

会 社 名：株式会社エルクコーポレーション  
 代表者名： 代表取締役社長 松本 啓二  
 (コード番号：9833 大証第二部)  
 問合せ先：取締役管理本部長 玉井 伯樹  
 (電話：06-6942-2309)

キヤノンマーケティングジャパン株式会社による  
 当社株式に対する公開買付けに関する賛同意見表明のお知らせ

当社は、平成 23 年 4 月 21 日開催の当社取締役会において、キヤノンマーケティングジャパン株式会社（以下「公開買付者」といいます。）による当社普通株式に対する公開買付け（以下「本公開買付け」といいます。）について慎重に協議・検討した結果、本公開買付けへ賛同の意を表明し、かつ、当社の株主の皆様に対し、本公開買付けに応募することを勧める旨を決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 公開買付者の概要

(1) 名 称	キヤノンマーケティングジャパン株式会社																				
(2) 所 在 地	東京都港区港南 2 丁目 16 番 6 号																				
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 川崎 正己																				
(4) 事 業 内 容	キヤノン製品の販売、サービス、マーケティングの統括																				
(5) 資 本 金	73,303 百万円																				
(6) 設 立 年 月 日	昭和 43 年 2 月																				
(7) 大株主及び持株比率 (平成22年12月31日現在)	<table border="0"> <tr> <td>キヤノン(株)</td> <td>50.11%</td> </tr> <tr> <td>キヤノンマーケティングジャパングループ社員持株会</td> <td>3.84%</td> </tr> <tr> <td>ザ バンク オブ ニューヨーク トリーティー ジャスデツク ア アカウント (常任代理人 (株)三菱東京 UFJ 銀行)</td> <td>1.74%</td> </tr> <tr> <td>日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)</td> <td>1.67%</td> </tr> <tr> <td>日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)</td> <td>1.52%</td> </tr> <tr> <td>アールビーシーデクシアインベスターサービスバンクアカウントルク センブルグノンレジデントドメスティックレート (常任代理人 スタ ンダード チャータード銀行)</td> <td>1.01%</td> </tr> <tr> <td>ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー</td> <td>0.87%</td> </tr> <tr> <td>キヤノンマーケティングジャパン取引先持株会</td> <td>0.72%</td> </tr> <tr> <td>(株)みずほ銀行</td> <td>0.66%</td> </tr> <tr> <td>ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ ノーザン トラスト ガンジー ノン トリーティー クライアンツ (常任代理 人 香港上海銀行 東京支店)</td> <td>0.60%</td> </tr> </table>	キヤノン(株)	50.11%	キヤノンマーケティングジャパングループ社員持株会	3.84%	ザ バンク オブ ニューヨーク トリーティー ジャスデツク ア アカウント (常任代理人 (株)三菱東京 UFJ 銀行)	1.74%	日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	1.67%	日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	1.52%	アールビーシーデクシアインベスターサービスバンクアカウントルク センブルグノンレジデントドメスティックレート (常任代理人 スタ ンダード チャータード銀行)	1.01%	ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	0.87%	キヤノンマーケティングジャパン取引先持株会	0.72%	(株)みずほ銀行	0.66%	ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ ノーザン トラスト ガンジー ノン トリーティー クライアンツ (常任代理 人 香港上海銀行 東京支店)	0.60%
キヤノン(株)	50.11%																				
キヤノンマーケティングジャパングループ社員持株会	3.84%																				
ザ バンク オブ ニューヨーク トリーティー ジャスデツク ア アカウント (常任代理人 (株)三菱東京 UFJ 銀行)	1.74%																				
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	1.67%																				
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	1.52%																				
アールビーシーデクシアインベスターサービスバンクアカウントルク センブルグノンレジデントドメスティックレート (常任代理人 スタ ンダード チャータード銀行)	1.01%																				
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	0.87%																				
キヤノンマーケティングジャパン取引先持株会	0.72%																				
(株)みずほ銀行	0.66%																				
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ ノーザン トラスト ガンジー ノン トリーティー クライアンツ (常任代理 人 香港上海銀行 東京支店)	0.60%																				
(8) 上場会社と公開買付者の関係																					

資 本 関 係	該当事項はありません。
人 的 関 係	該当事項はありません。
取 引 関 係	当社は、公開買付者及び公開買付者の関係会社との間で、公開買付者及び公開買付者の関係会社に対する血圧計等の製品の販売取引及び公開買付者及び公開買付者の関係会社からのデジタル X 線機器等の仕入取引を行っております。
関 連 当 事 者 へ の 該 当 状 況	該当事項はありません。

## 2. 当該公開買付けに関する意見の根拠及び理由

### (1) 本公開買付けに関する意見の内容

当社は、平成 23 年 4 月 21 日開催の当社取締役会において、本公開買付けについて慎重に協議・検討した結果、本公開買付けへ賛同の意を表明し、かつ、当社の株主の皆様に対し、本公開買付けに応募することを勧める旨を決議いたしました。

### (2) 本公開買付けに関する意見の根拠及び理由

#### ① 本公開買付けの概要

当社は、公開買付者より、本公開買付けの概要につき、以下の説明を受けております。

公開買付者は、平成 23 年 4 月 21 日開催の公開買付者取締役会において、当社を公開買付者の完全子会社とすることを目的として、株式会社大阪証券取引所（以下「大阪証券取引所」といいます。）市場第二部に上場している当社の発行済普通株式の全て（但し、当社が所有する自己株式を除きます。）を本公開買付けにより取得することを決議いたしました。

本公開買付けにおいては、買付予定数の上限を設定しておりません。一方、応募株券等の数の合計が 3,778,900 株（当社の自己株券買付状況報告書（平成 23 年 4 月 1 日提出）に記載された平成 23 年 3 月 31 日現在の当社の普通株式の発行済株式総数（6,453,689 株）から、同報告書に記載された平成 23 年 3 月 31 日現在当社が所有する自己株式数（788,317 株）を控除した株式数（5,665,372 株）の 66.7%に相当する株式数（3,778,804 株（小数点以下切り上げ。））から単元未満に係る数を切り上げた株式数）に満たない場合には応募株券等の全部の買付けを行わない旨の買付予定数の下限を設定しております。従って、応募株券等の数の合計が当該下限に満たない場合には、応募株券等の全部の買付けを行いません。

また、本公開買付けにより、公開買付者が当社の発行済普通株式の全て（但し、当社が所有する自己株式を除きます。）を取得できなかった場合には、下記「④本公開買付け後の組織再編等の方針（いわゆる二段階買収に関する事項）」に記載のとおり、公開買付者は、当社に対し、本公開買付け終了後に、公開買付者が当社の発行済株式の全て（但し、当社が所有する自己株式を除きます。）を取得するための手続（以下「本完全子会社化手続」といいます。）の実施を要請し、当社を公開買付者の完全子会社とする予定です。

公開買付者は本公開買付けにあたり、当社の取締役会長である西本晴男氏が代表取締役を務める西本不動産株式会社（所有株式数：1,342,600 株、当社の自己株券買付状況報告書（平成 23 年 4 月 1 日提出）に記載された平成 23 年 3 月 31 日現在の当社の普通株式の発行済株式総数（6,453,689 株）に対する所有株式数の割合（以下「所有割合」といいます。）：20.80%（小数点以下第三位を四捨五入。以下本項の%の数値において同じです。）、西本晴男氏（所有株式数：687,900 株、所有割合：10.66%）、西本保夫氏（所有株式数：152,500 株、所有割合：2.36%）、西本愛子氏（所有株式数：150,600 株、所有割合：2.33%）、西本延子氏（所有株式数：113,500 株、所有割合：1.76%）、及び西本憲弘氏（所有

株式数：20,100 株、所有割合：0.31%）（以下、西本不動産株式会社、西本晴男氏、西本保夫氏、西本愛子氏、西本延子氏及び西本憲弘氏を総称して「創業家株主」といいます。）との間で、平成 23 年 4 月 21 日付で公開買付応募契約（以下「本公開買付応募契約」といいます。）を締結しています。創業家株主は、本公開買付応募契約に基づき、それぞれが所有する当社の普通株式の全部（合計 2,467,200 株、所有割合：38.23%）について本公開買付けに応募する旨を合意しています（本公開買付応募契約の概要については、下記「3 公開買付者と当社の株主との間における公開買付けへの応募に係る重要な合意に関する事項」をご参照ください。）。

② 本公開買付けに関する意見の内容を決定するに至った背景及び意思決定の過程

当社が本公開買付けに関する意見の内容を決定するに至った背景及び意思決定の過程は以下のとおりです。なお、以下の記述中の公開買付者に関する記述は、公開買付者から受けた説明に基づくものです。

当社は、昭和 31 年の設立以来、医療関連用品及び医療機器の販売・製造を主とする事業を行っており、高品質な医療機器、健康管理機器及びサービスをタイムリーに国内外の顧客に届けることを使命とし、メーカー機能と商社機能を併せ持つ強みを活かして、顧客のニーズに適合した商品・サービスの開発や提案等を迅速かつ柔軟に行ってまいりました。長年の取引を通じ、全国の国立病院、大学付属病院、民間病院、療養所、医院、保健所等の医療施設及び医療機器販売会社等に強い営業基盤・チャンネルを構築しております。

また、当社は、「健康文化創造企業」という経営理念のもと、医療機器の取扱いを行うのみならず、高齢化社会において健康寿命の延伸を実現できるような予防医療の実践にも取り組んでおり、従来の医療分野に囚われず、広い意味での医療及び健康産業振興の一翼を担うことを目指しております。

他方、公開買付者は、昭和 43 年の設立以来、世界 180 カ国以上で幅広い事業を展開するグローバルキャノングループの一員であり、日本国内市場におけるマーケティング統括会社として、キャノン株式会社（以下「キャノン」といいます。）製品の販売、サービス及びマーケティングを統括し、付加価値の高いソリューションを顧客に提供してまいりました。近年においては、卸売業中心の事業展開から情報サービス業への業態変革を志向し経営体質強化を進めております。また、平成 15 年以降は、IT ソリューションビジネス体制構築を段階的に実施し、競争力の強化及びサービスの質的向上に向けた取り組みを行っております。

また、公開買付者は現在、「長期経営構想フェーズ II（2011 年～2015 年）」（以下「長期経営構想」といいます。）を掲げ、また、この実行計画として、3 年間の「中期経営計画（2011 年～2013 年）」を策定し、平成 23 年 1 月よりその実現に努めております。長期経営構想では、「事業創造で新しい成長の道へ」を経営テーマとしており、そのために、事業の多角化及びグローバルに展開するサービス事業会社化を重点戦略としております。そして、平成 27 年には、公開買付者及び公開買付者の子会社・関連会社（以下「公開買付者グループ」といいます。）として、連結売上高 8,500 億円以上を達成するべく挑戦しております。

以上のような経営戦略のもと、公開買付者は、医療ビジネスの拡大を最重点テーマの一つとして挙げ、これを最も注力すべき事業領域の一つと考えております。これまでの公開買付者の医療事業は、デジタル X 線機器や眼科機器等のキャノン製品に加え輸入商品を含めた医療用検査機器の卸売業に加え、電子カルテ、レセプトコンピュータ、各種医療関連ソフトの開発、販売等を行う医療ソリューション事業（公開買付者グループ会社であるキャノン ITS メディカル株式会社にて展開）を加えた「医療関連事業」を展開してまいりました。

公開買付者は、今後は、当該「医療関連事業」の拡大及び強化を最重要課題として捉えております。さらに、その他のヘルスケア関連ソリューションについても新規事業領域として早期に確立させ、医療事業の拡大に向けた取り組みを強化してまいります。

なお、公開買付者の親会社であるキャノンにおいても同様に医療事業を成長の柱の一つとして位置付けており、デジタル X 線機器、眼科機器等の医療用検査機器ラインナップの強化や、京都大学との産学連携等によるマンモグラフィ等の次世代製品の開発強化を行っております。将来的には、キャノングループとして医療産業における幅広い分野に貢献できることを目指す考えです。

近年の医療業界は、医療制度改革や外部環境の変化等により、事業機会の消失や競争激化が生じる可能性があり、公開買付者は、医療事業の経営は、不透明な環境下にあると考えています。

このような状況において、当社及び公開買付者は、平成 22 年 9 月頃より、両社の企業価値向上のための諸施策について協議・検討を重ねてまいりました。その結果、当社及び公開買付者は、現在の厳しい業界環境下において、両社の事業のさらなる成長を実現するためには、公開買付者が当社を完全子会社化し、資本関係を強化するとともに、相互の経営リソースを活用した強固な協業体制を早期に構築することが、両社の企業価値向上にとって有益であると判断するに至りました。

現在、公開買付者グループの医療事業は特定製品の卸売業と小病院・クリニック向けのソリューション販売に特化しており、大・中病院施設との関係構築及びユーザー志向のソリューション提案力の向上が今後の課題となっておりますが、両社の資本提携を契機とし、当社がこれまで培ってきた医療事業のノウハウ及び販売チャネルを活かした現場や顧客のニーズに即した形で自社あるいは外部の工場の協力を得ながら製品開発及び製品導入を行うというマーケットインの発想に基づく販売方法（「創る商社」）の強みと公開買付者グループの経営資源を有機的に融合させることにより、両社の発展・成長を目指します。具体的には、以下のような分野におけるシナジーの発現を想定しております。

まず、医療イメージング事業については、「トータルプロバイダー」としての地位を確立することを戦略の骨子と考えており、(i)医療用検査機器の拡充、(ii)医療用画像管理システムを中心とした画像診断系ソリューションの提供と、それらに関連する(iii)業務系ソリューションの提供、(iv)メディカルデータセンターによる情報管理サービスの提供等を基軸に、当社の強靱な販売チャネルをベースにしたビジネス展開を考えております。

調剤事業については、当社の既存ビジネスに加え、公開買付者の IT ソリューション及びドキュメントソリューションの融合によるビジネス展開の構築を目指します。具体的には、病院内や調剤専門薬局向けに、当社が強みを有する自動分包機を核とした調剤用機器の提供と、電子カルテ等を含めたソリューション提案を行ってまいります。また、「かかりつけ薬局」を目指す地域薬局やドラッグストア向けに、調剤システムとヘルスプロモーションを融合させた新しい薬局運営の総合的提案という当社戦略を継承し、調剤分野におけるトータルソリューションプロバイダーを目指します。

ヘルスケア事業については、全国に拠点を持つ公開買付者グループの体制を強みとした、当社の各種製品の販売、IT 連携によるソリューション提案等の実施によるビジネスの拡大を目指します。

感染管理事業については、公開買付者は、同事業を医療事業拡大における重要な新規事業領域と認識し、当社事業のさらなる発展に鋭意努めてまいります。具体的なシナジーとしては、キャノングループのグローバルネットワークを活かしての世界市場への製品展開を考えております。

海外事業については、当社グループ製品及び優れたその他の日本製品の輸出や特長ある海外製品の輸入を行う当社の海外事業戦略は、新興国を中心にグローバルに展開するキャノングループ各社と連携することで、積極的な事業展開・拡大を狙えるものと考えており、公開買付者の今後の海外展開（輸入及び輸出ビジネス）と整合するものであると認識しております。

さらに、当社グループの有する製品開発・生産・製造に関する機能・ノウハウの活用及び公開買付者グループとの連携による新製品の開発・生産の実施、並びに、サポート拠点の増加に伴う顧客サポートの充実や IT ソリューションを中心としたカスタマーサポート事業の機能強化などによるシナジー効果の発揮を想定しております。

以上のように、公開買付者は、公開買付者及び当社の資本提携による関係強化、事業の一体運営による各事業領域におけるシナジーの実現が、両社の企業価値の向上に資するものと判断し、本公開買付けの実施を決定いたしました。

### ③ 本公開買付け後の経営方針

当社は、公開買付者より、本公開買付け後の経営方針につき、以下の説明を受けております。

公開買付者は、現時点において、本公開買付け成立後における当社の経営方針として、(i)当社を医療ビジネスの中核企業として更なる事業拡大を目指す方針であること、(ii)当社の従業員の雇用及び現経営体制を原則として継続する方針であること、(iii)当社のブランドについて原則として当面の間維持する方針

であること、(iv)公開買付者と当社との間の出向その他の人材交流について検討すること、についての意向を有しています。公開買付者は、本公開買付けが成立した場合、上記の経営方針のもと、公開買付者と当社の関係強化、事業の一体運営による各事業領域におけるシナジーの実現を加速してまいります。なお、公開買付者は、当社との間で、平成 23 年 6 月 22 日開催予定の当社の第 55 回定時株主総会(以下「本定時株主総会」といいます。)において、当社が公開買付者の指定する取締役候補者及び監査役候補者を当社の取締役及び監査役に選任する旨の役員選任議案を上程することを合意しています。創業家株主は、かかる役員選任議案が本定時株主総会に上程されたときには、当該議案に対して賛成の議決権を行使すること、その他本定時株主総会における全ての議決権を公開買付者の指示に従い行使することを、本公開買付応募契約において合意しています。さらに、本公開買付応募契約において、当社の取締役会長である西本晴男は、本公開買付けが成立した場合、速やかに当社の取締役を辞任する旨を合意しています。

また、当社は、平成 23 年 4 月 21 日開催の取締役会において、平成 23 年 3 月期の配当予想を 1 株当たり 10 円のまま維持すること及び平成 23 年 9 月期の中間配当については、実施しないことを決議いたしました。なお、当社は従前より、年 1 回配当を配当回数に関する基本方針としております。

### (3) 本公開買付け後の組織再編等の方針 (いわゆる二段階買収に関する事項)

当社は、公開買付者より、本公開買付け後の組織再編等の方針 (いわゆる二段階買収に関する事項) につき、以下の説明を受けております。

公開買付者は、上記「①本公開買付けの概要」に記載のとおり、当社を公開買付者の完全子会社とすることを目的として、当社の発行済普通株式の全て (但し、当社が所有する自己株式を除きます。) の取得を目指した本公開買付けを実施します。本公開買付けにおいて当社の発行済普通株式の全て (但し、当社が所有する自己株式を除きます。) を取得できなかった場合には、公開買付者は、本公開買付け後に、以下の方法により、公開買付者を除く当社の株主に対して当社の株式の売却機会を提供しつつ、公開買付者が当社の発行済株式の全て (但し、当社が所有する自己株式を除きます。) を取得するための本完全子会社化手続を実施することを企図しております。

具体的には、(i)本公開買付けが成立した後に、当社において普通株式とは別個の種類株式を発行できる旨の定款の一部変更を行うこと、(ii)当社の発行する全ての普通株式に全部取得条項 (会社法 (平成 17 年法律第 86 号。その後の改正を含みます。以下同じです。) 第 108 条第 1 項第 7 号に規定する事項についての定めをいいます。以下同じです。) を付す旨の定款の一部変更を行うこと、及び(iii)当社の当該普通株式の全て (但し、当社が所有する自己株式を除きます。) の取得と引換えに別個の種類株式の交付することのそれぞれを付議議案に含む臨時株主総会 (以下「本臨時株主総会」といいます。) を、平成 23 年 8 月を目途として開催することを、当社に対して要請する予定です。

また、本臨時株主総会にて上記(i)のご承認をいただき、上記(i)に係る定款の一部変更の効力が発生しますと、当社は会社法の規定する種類株式発行会社となるところ、上記(ii)に係る定款の一部変更の効力を生じさせるためには、会社法第 111 条第 2 項第 1 号に基づき、上記(ii)の承認に係る決議に加えて、株式の内容として全部取得条項が付される当社の普通株式を所有する株主を構成員とする種類株主総会 (以下「本種類株主総会」といいます。) の決議が必要となるため、公開買付者は、当社に対し、本臨時株主総会の開催日と同日を開催日とする本種類株主総会の開催を要請する予定です。

公開買付者は、本公開買付けが成立した場合には、当社の普通株式 (但し、当社が所有する自己株式を除きます。) の 66.7%以上を所有することとなる予定であり、公開買付者は、本臨時株主総会及び本種類株主総会に上記各議案が上程された場合、本臨時株主総会及び本種類株主総会において上記各議案に賛成する予定です。

上記の各手続が実行された場合には、当社の普通株式は全て全部取得条項が付されたうえで、その全て (但し、当社が所有する自己株式を除きます。) が当社に取得されることとなり、当社の株主には当該普通株式の取得の対価として当社の別個の種類株式が交付されることとなりますが、交付されるべき当該当社の別個の種類株式の数が 1 株に満たない端数となる株主に対しては、会社法第 234 条その他の関係法令の定める手続に従い、当該端数の合計数 (合計した数に端数がある場合には、当該端数は切り捨てられます。) に相当する当該当社の別個の種類株式を売却すること等によって得られる金銭が交付されることに

なります。なお、公開買付者は、当該端数の合計数に相当する当該当社の別個の種類株式の売却の結果、各株主に交付される金銭の額については、本公開買付けにおける当社の普通株式の1株当たりの買付価格（以下「本公開買付価格」といいます。）に当該各株主が所有していた当社の普通株式の数を乗じた価格と同一になるよう、当社に対して要請する予定です。また、全部取得条項が付された普通株式の取得の対価として交付される当社の別個の種類株式の内容及び数は本日現在未定ですが、かかる株式の数については、公開買付者が当社の発行済株式の全て（但し、当社が所有する自己株式を除きます。）を所有することとなるよう、公開買付者以外の当社の株主で本公開買付けに応募しなかった株主に対して交付する数が1株に満たない端数となるように決定することを当社に対して要請する予定です。

なお、公開買付者は、原則として平成23年11月中を目途に、本完全子会社化手続を完了させることを予定しております。

本完全子会社化手続に関連する少数株主の権利保護を目的とした会社法上の規定として、(I) 上記(ii)の普通株式に全部取得条項を付す旨の定款変更を行うに際しては、会社法第116条及び第117条その他の関係法令の定めに従って、普通株主がその有する普通株式の買取請求を行うことができる旨が定められており、また、(II) 上記(iii)の全部取得条項が付された当社の普通株式全て（但し、当社が所有する自己株式を除きます。）の取得が当社の本臨時株主総会において決議された場合には、会社法第172条その他の関係法令の定めに従って、株主は当該株式の取得の価格の決定の申立てを行うことができる旨が定められています。

なお、公開買付者は、関係法令の改正や関係法令についての当局の解釈、本公開買付け後の公開買付者の株券等所有割合、及び公開買付者以外の当社の株主による当社の普通株式の所有状況等によっては、本完全子会社化手続に代えてそれと概ね同等の効果を有する他の方法により当社の完全子会社化を実施する可能性があり、また、実施時期に変更が生じる可能性もあります。但し、その場合であっても、公開買付者以外の当社の株主が受け取ることになる対価の額については、本公開買付価格を基準として算定する予定です。この場合における具体的な手続については、協議のうえ、決定次第、速やかに公表いたします。

#### (4) 上場廃止となる見込み及びその理由

当社は、公開買付者より、上場廃止となる見込み及びその理由につき、以下の説明を受けております。

当社の普通株式は、本日現在、大阪証券取引所市場第二部に上場されておりますが、公開買付者は、本公開買付けにおいて買付予定数の上限を設定しておらず、本公開買付けの結果次第では、大阪証券取引所の上場廃止基準に従い、当社の普通株式は所定の手続を経て上場廃止となる可能性があります。また、本公開買付けの成立時点で当該基準に該当しない場合でも、上記「(3) 本公開買付け後の組織再編等の方針（いわゆる二段階買収に関する事項）」に記載のとおり、公開買付者は、本完全子会社化手続により当社を完全子会社化することを企図しておりますので、その場合には大阪証券取引所の上場廃止基準に従い、当社の普通株式は所定の手続を経て上場廃止となります。なお、当社の普通株式の上場廃止後は、当社の普通株式を大阪証券取引所において取引することはできなくなります。

#### (5) 買付価格の公正性を担保するための措置

##### ① 公開買付者における独立した第三者算定機関からの株式価値算定書の取得

当社は、公開買付者より、買付価格の公正性を担保するための措置につき、以下の説明を受けております。

公開買付者は、本公開買付価格を決定するにあたり、公開買付者及び当社から独立した第三者算定機関としてのフィナンシャル・アドバイザーである GCA サヴィアン株式会社（以下「GCA」といいます。）に本公開買付価格の決定の参考とするために当社の株式価値の評価を依頼しました。GCA は、ディスカунテッド・キャッシュ・フロー法（以下「DCF 法」といいます。）、市場株価法及び類似取引事例法の各手法を用いて当社の株式価値の算定（以下「本算定」といいます。）を行い、公開買付者は平成23年4月20日にGCAから「株式価値算定書」（以下「本算定書（GCA）」）の提出を受けております（なお、公開買付者は、本公開買付価格の公正性に関する評価（フェアネス・オピニオン）を取得しておりません）。上記各手法において算定された、当社株式1株当たりの価値の範囲は以下のとおりです。

DCF 法

611 円～763 円

市場株価法	388 円～391 円
類似取引事例法	648 円～686 円

DCF 法では、当社から提供を受けた事業計画、当社へのマネジメント・インタビュー及び直近までの業績の動向等に基づき、当社が将来生み出すと見込まれるフリー・キャッシュ・フローを一定の割引率で現在価値に割り引いて企業価値及び株式価値を分析し、1株当たりの株式価値の範囲を算定しております。

市場株価法では、平成 23 年 4 月 20 日を基準日として、大阪証券取引所市場第二部における当社株式の基準日終値、直近 1 ヶ月間、直近 3 ヶ月間及び直近 6 ヶ月間の各期間における単純平均株価（終値）（それぞれ、388 円、388 円、391 円、388 円）を基に、1株当たりの株式価値の範囲を算定しております。

類似取引事例法では、過去 1 年間に実施された他社株公開買付けのうち、本公開買付けと類似性の高い事例について、買付価格と公開買付けの公表日の前営業日の株価（終値）、公表日の前営業日から遡る過去 1 ヶ月間の終値の単純平均値、同過去 3 ヶ月間の終値の単純平均値、同過去 6 ヶ月間の終値の単純平均値を比較し、その平均的なプレミアムにより、1株当たりの株式価値の範囲を算定しております。

なお、GCA は本算定において、平成 23 年 4 月 21 日付で当社より公表された「業績予想の修正並びに平成 23 年 3 月期及び 9 月期配当に関するお知らせ」記載の平成 23 年 3 月期の通期業績予想の内容を予め考慮したうえで、評価を行っています。

本公開買付価格 670 円は、公開買付者による本公開買付けの開始についての公表日の前営業日である平成 23 年 4 月 20 日の大阪証券取引所市場第二部における当社株式の普通取引終値の 388 円に対して 72.68%（小数点以下第三位を四捨五入。以下本項の%の数値において同じです。）、平成 23 年 4 月 20 日までの過去 1 ヶ月間の普通取引終値の単純平均値 388 円（小数点以下を四捨五入。以下本項の円の数値において同じです。）に対して 72.68%（小数点以下第三位四捨五入）、平成 23 年 4 月 20 日までの過去 3 ヶ月間の普通取引終値の単純平均値 391 円に対して 71.36%、平成 23 年 4 月 20 日までの過去 6 ヶ月間の普通取引終値の単純平均値 388 円に対して 72.68%のプレミアムをそれぞれ加えた金額になります。

公開買付者は、本算定書（GCA）の内容を参考に、公開買付者において実施した買収監査（デュー・ディリジェンス）の結果、当社株式の市場株価の動向、及び応募株数の見通し等を総合的に勘案し、かつ、創業者株主及び当社との協議・交渉の結果を踏まえ、最終的に平成 23 年 4 月 21 日開催の取締役会において、本公開買付価格を 1 株当たり 670 円とすることを決定いたしました。

## ② 当社における独立した第三者算定機関からの株式価値算定書の取得

当社の取締役会は、本公開買付けの妥当性を検討するにあたって、当社及び公開買付者から独立した第三者算定機関であるデロイトトーマツ F A S 株式会社（以下「トーマツ」といいます。）を選任し、本公開買付価格の公正性・妥当性を判断するための基礎資料として、トーマツに当社普通株式の株式価値の算定を依頼し、平成 23 年 4 月 20 日付でトーマツより株式価値算定書を取得しました。また、本公開買付けに関する当社取締役会の意思決定の公正性及び適正性を担保するために、弁護士法人北浜法律事務所から必要な法的助言を受けております。なお、当社は、第三者算定機関から本公開買付価格の公正性に関する意見書（フェアネス・オピニオン）は取得しておりません。トーマツによる当社の株式価値の算定結果は以下のとおりです。

トーマツは、当社の取締役会から事業の現状及び当社作成の将来の事業計画（以下「当社事業計画」といいます。）等の資料を取得して説明を受け、それらの情報を踏まえて、一定の前提及び条件の下で当社の株式価値を算定しています。トーマツの株式価値算定書では、当社が継続企業であるとの前提の下、市場株価法、類似会社比較法及び DCF 法を用いて当社の株式価値を算定しています。

なお、トーマツは当該算定において、平成 23 年 4 月 21 日付で当社より公表された「業績予想の修正並びに平成 23 年 3 月期及び 9 月期配当に関するお知らせ」記載の平成 23 年 3 月期の通期業績予想の内容を予め考慮したうえで、評価を行っています。

市場株価法では、評価基準日を平成 23 年 4 月 20 日として、最近における株価及び取引量に鑑み、当社普通株式の大阪証券取引所市場第二部における評価基準日までの 1 ヶ月、3 ヶ月及び 6 ヶ月における

株価の出来高加重平均株価（1ヶ月：406円、3ヶ月：397円、6ヶ月：391円）を分析したうえで、当社普通株式の1株当たりの株式価値を391円～406円と算定しています。

類似会社比較法では、上場類似企業の各種比率を分析したうえで、当社普通株式の1株当たりの株式価値を361円～483円と算定しています。

DCF法では、平成22年12月31日時点における当社事業計画を基礎として算定した将来キャッシュフローを、一定の割引率で現在価値に割り引くことによって企業価値を評価し、当社普通株式の1株当たりの株式価値を594円～690円と算定しています。

なお、トーマツは、公開買付者及び当社の関連当事者には該当せず、本公開買付けに関して記載すべき重要な利害関係を有しておりません。

### ③ 当社取締役会における承認

当社取締役会は、平成23年4月21日付で、トーマツから取得した平成23年4月20日付の株式価値算定書の内容、弁護士法人北浜法律事務所の法的助言等に基づき、本完全子会社化手続を含めた一連の手続及び本公開買付価格その他の本公開買付けの諸条件の妥当性について慎重に協議・検討した結果、本公開買付けは、当社の財務状況、事業環境等に照らして当社の経営基盤を強化し、今後の中長期的な企業価値の向上に資するものであるとともに、当社の株主に対して合理的なプレミアムを付した価格での株式売却の機会を提供するものであると判断したことから、本公開買付けへ賛同の意を表明し、かつ、当社の株主に対し、本公開買付けに応募することを勧める旨の決議をいたしました。

本公開買付けに関する意見の内容に関する上記決議は、平成23年4月21日開催の取締役会において、決議に参加した取締役（創業家株主として公開買付者との間で本公開買付けに応募する旨の本公開買付応募契約を締結している西本晴男は、本公開買付けに関する意見の内容に関する上記決議につき特別利害関係を有する取締役（会社法第369条第2項）に該当する可能性があるため、上記決議に係る審議及び決議には参加しておりませんが、西本晴男を除く当社の全ての取締役が決議に参加しております。）の全員一致により行われております。また、上記の取締役会には、当社の全ての監査役が審議に参加し、いずれも、当社の取締役会による本公開買付けに関する意見の内容につき異議がない旨の意見を述べております。

### 3. 公開買付者と当社の株主との間における公開買付けへの応募に係る重要な合意に関する事項

当社は、公開買付者より、公開買付者と当社の株主との間における公開買付けへの応募に係る重要な合意に関する事項につき、以下の説明を受けております。

公開買付者は創業家株主との間で、平成23年4月21日付で、それぞれが所有する当社の普通株式全部（合計2,467,200株、所有割合：38.23%）について本公開買付けに応募する旨の本公開買付応募契約を締結しております。本公開買付応募契約において、(i) 創業家株主は、当社の取締役会をして、本定時株主総会において公開買付者の指定する取締役候補者及び監査役候補者を当社の取締役及び監査役に選任する旨の役員選任議案を上程させる旨、(ii) 創業家株主は、本公開買付けが成立し、当該議案が本定時株主総会に上程されたときには、当該議案に対して賛成の議決権を行使すること、その他本定時株主総会における全ての議決権を公開買付者の指示に従い行使する旨、並びに、(iii) 当社の取締役会長である西本晴男は、本公開買付けが成立した場合、速やかに当社の取締役を辞任する旨を合意しています。

### 4. 公開買付者又はその特別関係者による利益供与の内容

該当事項はありません。

### 5. 会社の支配に関する基本方針に係る対応方針

該当事項はありません。

### 6. 公開買付者に対する質問

該当事項はありません。

7. 公開買付期間の延長請求  
該当事項はありません。

以上

※ 添付資料：

平成 23 年 4 月 21 日付「株式会社エルクコーポレーション株券に対する公開買付けの開始に関するお知らせ」

平成 23 年 4 月 21 日

各 位

会 社 名 キヤノンマーケティングジャパン株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 川崎 正己  
(コード番号：8060 東証第一部)  
問 合 せ 先 執行役員コミュニケーション本部長  
松阪 喜幸  
(TEL. 03-6719-9095)

## 株式会社エルクコーポレーション株券に対する公開買付けの開始に関するお知らせ

キヤノンマーケティングジャパン株式会社（以下「公開買付者」又は「当社」といいます。）は、平成 23 年 4 月 21 日開催の取締役会において、下記のとおり、株式会社エルクコーポレーション(コード番号：9833、大証第二部、以下「対象者」といいます。)の普通株式を金融商品取引法（昭和 23 年法律第 25 号。その後の改正を含みます。以下「法」といいます。）に基づく公開買付け(以下「本公開買付け」といいます。)により取得することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 買付け等の目的等

##### (1) 本公開買付けの概要

当社は、平成 23 年 4 月 21 日開催の当社取締役会において、対象者を当社の完全子会社とすることを目的として、株式会社大阪証券取引所（以下「大阪証券取引所」といいます。）市場第二部に上場している対象者の発行済普通株式の全て（但し、対象者が所有する自己株式を除きます。）を本公開買付けにより取得することを決議いたしました。

本公開買付けにおいては、買付予定数の上限を設定しておりません。一方、応募株券等の数の合計が 3,778,900 株（対象者の自己株券買付状況報告書（平成 23 年 4 月 1 日提出）に記載された平成 23 年 3 月 31 日現在の対象者の普通株式の発行済株式総数（6,453,689 株）から、同報告書に記載された平成 23 年 3 月 31 日現在対象者が所有する自己株式数（788,317 株）を控除した株式数（5,665,372 株）の 66.7%に相当する株式数（3,778,804 株（小数点以下切り上げ。））から単元未満に係る数を切り上げた株式数）に満たない場合には応募株券等の全部の買付けを行わない旨の買付予定数の下限を設定しております。従って、応募株券等の数の合計が当該下限に満たない場合には、応募株券等の全部の買付けを行いません。

また、本公開買付けにより、当社が対象者の発行済普通株式の全て（但し、対象者が所有する自己株式を除きます。）を取得できなかった場合には、下記「(4) 本公開買付け後の組織再編等の方針（いわゆる二段階買収に関する事項）」に記載のとおり、当社は、対象者に対し、本公開買付け終了後に、当社が対象者の発行済株式の全て（但し、対象者が所有する自己株式を除きます。）を取得するための手続（以下「本完全子会社化手続」といいます。）の実施を要請し、対象者を当社の完全子会社とする予定です。

当社は本公開買付けにあたり、対象者の取締役会長である西本晴男氏が代表取締役を務める西本不動産株式会社（所有株式数：1,342,600 株、対象者の自己株券買付状況報告書（平成 23 年 4 月 1 日提出）に記載された平成 23 年 3 月 31 日現在の対象者の普通株式の発行済株式総数（6,453,689 株）に対する所有株式数の割合（以下「所有割合」といいます。）：20.80%（小数点以下第三位を四捨五入。以下本項の%の数値において同じです。）、西本晴男氏（所有株式数：687,900 株、所有割合：10.66%）、西本保夫氏（所有株式数：152,500 株、所有割合：2.36%）、西本愛子氏（所有株式数：150,600 株、所有割合：2.33%）、西本延子氏（所有株式数：113,500 株、所有割合：1.76%）、及び西本憲弘氏（所有株式数：20,100 株、所有割合：0.31%）（以下、西本不動産株式会社、西本晴男氏、西本保夫氏、西本愛子氏、西本延子氏及び西本憲弘氏を総称して「創業者

株主」といいます。)との間で、平成23年4月21日付で公開買付応募契約(以下「本公開買付応募契約」といいます。)を締結しています。創業家株主は、本公開買付応募契約に基づき、それぞれが所有する対象者の普通株式の全部(合計2,467,200株、所有割合:38.23%)について本公開買付けに応募する旨を合意しています(本公開買付応募契約の概要については、下記「(6)公開買付者と対象者の株主との間における公開買付けへの応募に係る重要な合意に関する事項」をご参照ください。)

なお、対象者によれば、対象者は、平成23年4月21日開催の対象者の取締役会において、本完全子会社化手続を含めた一連の手続及び本公開買付価格(下記「(4)本公開買付け後の組織再編等の方針(いわゆる二段階買取に関する事項)」に定義されます。)その他の本公開買付けの諸条件の妥当性について慎重に協議・検討した結果、本公開買付けは、対象者の財務状況、事業環境等に照らして対象者の経営基盤を強化し、今後の中長期的な企業価値の向上に資するものであるとともに、対象者の株主に対して合理的なプレミアムを付した価格での株式売却の機会を提供するものであると判断したことから、本公開買付けへ賛同の意を表明し、かつ、対象者の株主に対し、本公開買付けに応募することを勧める旨の決議をしたとのことです。

なお、対象者によれば、本公開買付けに関する意見の内容に関する上記決議は、平成23年4月21日開催の対象者の取締役会において、決議に参加した取締役(創業家株主として当社との間で本公開買付けに応募する旨の本公開買付応募契約を締結している西本晴男氏は、本公開買付けに関する意見の内容に関する上記決議につき特別利害関係を有する取締役(会社法(平成17年法律第86号。その後の改正を含みます。以下同じです。)第369条第2項)に該当する可能性があるため、上記決議に係る審議及び決議には参加していませんが、西本晴男氏を除く対象者の全ての取締役が決議に参加したとのことです。)の全員一致により行われたとのことです。また、上記の取締役会には、対象者の全ての監査役が審議に参加し、いずれも、対象者の取締役会による本公開買付けに関する意見の内容につき異議がない旨の意見を述べたとのことです。

## (2) 本公開買付けの実施を決定するに至った背景及び意思決定の過程

当社が本公開買付けの実施を決定するに至った背景及び意思決定の過程並びに本公開買付け後の経営方針は、以下のとおりです。なお、以下の記述中の対象者に関する記述は、対象者から受けた説明に基づくものです。

当社は、昭和43年の設立以来、世界180カ国以上で幅広い事業を展開するグローバルキヤノングループの一員であり、日本国内市場におけるマーケティング統括会社として、キヤノン株式会社(以下「キヤノン」といいます。)製品の販売、サービス及びマーケティングを統括し、付加価値の高いソリューションを顧客に提供してまいりました。近年においては、卸売業中心の事業展開から情報サービス業への業態変革を志向し経営体質強化を進めております。また、平成15年以降は、ITソリューションビジネス体制構築を段階的に実施し、競争力の強化及びサービスの質的向上に向けた取組みを行っております。

また、当社は現在、「長期経営構想フェーズII(2011年~2015年)」(以下「長期経営構想」といいます。)を掲げ、また、この実行計画として、3カ年の「中期経営計画(2011年~2013年)」を策定し、平成23年1月よりその実現に努めております。長期経営構想では、「事業創造で新しい成長の道へ」を経営テーマとしており、そのために、事業の多角化及びグローバルに展開するサービス事業会社化を重点戦略としております。そして、平成27年には、当社及び当社の子会社・関連会社(以下「当社グループ」といいます。)として、連結売上高8,500億円以上を達成するべく挑戦しております。

以上のような経営戦略のもと、当社は、医療ビジネスの拡大を最重点テーマの一つとして挙げ、これを最も注力すべき事業領域の一つと考えております。これまでの当社の医療事業は、デジタルX線機器や眼科機器等のキヤノン製品に加え輸入商品を含めた医療用検査機器の卸売業に加え、電子カルテ、レセプトコンピュータ、各種医療関連ソフトの開発、販売等を行う医療ソリューション事業(当社グループ会社であるキヤノンITSメディカル株式会社にて展開)を加えた「医療関連事業」を展開してまいりました。

当社は、今後は、当該「医療関連事業」の拡大及び強化を最重要課題として捉えております。さらに、その他のヘルスケア関連ソリューションについても新規事業領域として早期に確立させ、医療事業の拡大に向けた取組みを強化してまいります。

なお、当社の親会社であるキヤノンにおいても同様に医療事業を成長の柱の一つとして位置付けており、デジタルX線機器、眼科機器等の医療用検査機器ラインナップの強化や、京都大学との産学連携等によるマンモグラフィ等の次世代製品の開発強化を行っております。将来的には、キヤノングループとして医療産業におけ

る幅広い分野に貢献できることを目指す考えです。

一方、対象者は、昭和 31 年の設立以来、医療関連用品及び医療機器の販売・製造を主とする事業を行っており、高品質な医療機器、健康管理機器及びサービスをタイムリーに国内外の顧客に届けることを使命とし、メーカー機能と商社機能を併せ持つ強みを活かして、顧客のニーズに適合した商品・サービスの開発や提案等を迅速かつ柔軟に行ってまいりました。長年の取引を通じ、全国の国公立病院、大学付属病院、民間病院、療養所、医院、保健所等の医療施設及び医療機器販売会社等に強い営業基盤・チャンネルを構築しております。

また、対象者は、「健康文化創造企業」という経営理念のもと、医療機器の取扱いを行うのみならず、高齢化社会において健康寿命の延伸を実現できるような予防医療の実践にも取り組んでおり、従来の医療分野に囚われず、広い意味での医療及び健康産業振興の一翼を担うことを目指しております。

近年の医療業界は、医療制度改革や外部環境の変化等により、事業機会の消失や競争激化が生じる可能性があり、当社は、医療事業の経営は、不透明な環境下にあると考えております。

このような状況において、当社及び対象者は、平成 22 年 9 月頃より、両社の企業価値向上のための諸施策について協議・検討を重ねてまいりました。その結果、当社及び対象者は、現在の厳しい業界環境下において、両社の事業のさらなる成長を実現するためには、当社が対象者を完全子会社化し、資本関係を強化するとともに、相互の経営リソースを活用した強固な協業体制を早期に構築することが、両社の企業価値向上にとって有益であると判断するに至りました。

現在、当社グループの医療事業は特定製品の卸売業と小病院・クリニック向けのソリューション販売に特化しており、大・中病院施設との関係構築及びユーザー志向のソリューション提案力の向上が今後の課題となっておりますが、両社の資本提携を契機とし、対象者がこれまで培ってきた医療事業のノウハウ及び販売チャンネルを活かした現場や顧客のニーズに即した形で自社あるいは外部の工場の協力を得ながら製品開発及び製品導入を行うというマーケットインの発想に基づく販売方法（「創る商社」）の強みと当社グループの経営資源を有機的に融合させることにより、両社の発展・成長を目指します。具体的には、以下のような分野におけるシナジーの発現を想定しております。

まず、医療イメージング事業については、「トータルプロバイダー」としての地位を確立することを戦略の骨子と考えており、①医療用検査機器の拡充、②医療用画像管理システムを中心とした画像診断系ソリューションの提供と、それらに関連する③業務系ソリューションの提供、④メディカルデータセンターによる情報管理サービスの提供等を基軸に、対象者の強靱な販売チャンネルをベースにしたビジネス展開を考えております。

調剤事業については、対象者の既存ビジネスに加え、当社の IT ソリューション及びドキュメントソリューションの融合によるビジネス展開の構築を目指します。具体的には、病院内や調剤専門薬局向けに、対象者が強みを有する自動分包機を核とした調剤用機器の提供と、電子カルテ等を含めたソリューション提案を行ってまいります。また、「かかりつけ薬局」を目指す地域薬局やドラッグストア向けに、調剤システムとヘルスプロモーションを融合させた新しい薬局運営の総合的提案という対象者の戦略を継承し、調剤分野におけるトータルソリューションプロバイダーを目指します。

ヘルスケア事業については、全国に拠点有する当社グループの体制を強みとした、対象者の各種製品の販売、IT 連携によるソリューション提案等の実施によるビジネスの拡大を目指します。

感染管理事業については、当社は、同事業を医療事業拡大における重要な新規事業領域と認識し、対象者事業のさらなる発展に鋭意努めてまいります。具体的なシナジーとしては、キヤノングループのグローバルネットワークを活かしての世界市場への製品展開を考えております。

海外事業については、対象者グループ製品及び優れたその他の日本製品の輸出や特長ある海外製品の輸入を行う対象者の海外事業戦略は、新興国を中心にグローバルに展開するキヤノングループ各社と連携することで、積極的な事業展開・拡大を狙えるものと考えており、当社の今後の海外展開（輸入及び輸出ビジネス）と整合するものであると認識しております。

さらに、対象者グループの有する製品開発・生産・製造に関する機能・ノウハウの活用及び当社グループと

の連携による新製品の開発・生産の実施、並びに、サポート拠点の増加に伴う顧客サポートの充実や IT ソリューションを中心としたカスタマーサポート事業の機能強化などによるシナジー効果の発揮を想定しております。

以上のように、当社は、当社及び対象者の資本提携による関係強化、事業の一体運営による各事業領域におけるシナジーの実現が、両社の企業価値の向上に資するものと判断し、本公開買付けの実施を決定いたしました。

### (3) 本公開買付け後の経営方針

当社は、現時点において、本公開買付け成立後における対象者の経営方針として、①対象者を医療ビジネスの中核企業として更なる事業拡大を目指す方針であること、②対象者の従業員の雇用及び現経営体制を原則として継続する方針であること、③対象者のブランドについて原則として当面の間維持する方針であること、④当社と対象者との間の出向その他の人材交流について検討すること、についての意向を有しています。当社は、本公開買付けが成立した場合、上記の経営方針のもと、当社と対象者の関係強化、事業の一体運営による各事業領域におけるシナジーの実現を加速してまいります。なお、当社は、対象者との間で、平成 23 年 6 月 22 日開催予定の対象者の第 55 回定時株主総会（以下「本定時株主総会」といいます。）において、対象者が当社の指定する取締役候補者及び監査役候補者を対象者の取締役及び監査役に選任する旨の役員選任議案を上程することを合意しています。創業家株主は、かかる役員選任議案が本定時株主総会に上程されたときには、当該議案に対して賛成の議決権を行使すること、その他本定時株主総会における全ての議決権を当社の指示に従い行使することを、本公開買付け応募契約において合意しています。さらに、本公開買付け応募契約において、対象者の取締役会長である西本晴男氏は、本公開買付けが成立した場合、速やかに対象者の取締役を辞任する旨を合意しています。

また、対象者によれば、対象者は、平成 23 年 4 月 21 日開催の取締役会において、平成 23 年 3 月期の配当予想を 1 株当たり 10 円のまま維持すること及び同年 9 月期の中間配当については、実施しないことを決議したとのことです。なお、対象者は従前より、年 1 回配当を配当回数に関する基本方針としているとのことです。

### (4) 本公開買付け後の組織再編等の方針（いわゆる二段階買収に関する事項）

当社は、上記「(1) 本公開買付けの概要」に記載のとおり、対象者を当社の完全子会社とすることを目的として、対象者の発行済普通株式の全て（但し、対象者が所有する自己株式を除きます。）の取得を目指した本公開買付けを実施します。本公開買付けにおいて対象者の発行済普通株式の全て（但し、対象者が所有する自己株式を除きます。）を取得できなかった場合には、当社は、本公開買付け後に、以下の方法により、当社を除く対象者の株主に対して対象者の株式の売却機会を提供しつつ、当社が対象者の発行済株式の全て（但し、対象者が所有する自己株式を除きます。）を取得するための本完全子会社化手続を実施することを企図しております。

具体的には、①本公開買付けが成立した後に、当社は、対象者において普通株式とは別個の種類株式を発行できる旨の定款の一部変更を行うこと、②対象者の発行する全ての普通株式に全部取得条項（会社法第 108 条第 1 項第 7 号に規定する事項についての定めをいいます。以下同じです。）を付す旨の定款の一部変更を行うこと、及び③対象者の当該普通株式の全て（但し、対象者が所有する自己株式を除きます。）の取得と引換えに別個の種類株式の対象者の株式を交付することのそれぞれを付議議案に含む臨時株主総会（以下「本臨時株主総会」といいます。）を、平成 23 年 8 月を目途として開催することを、対象者に対して要請する予定です。

また、本臨時株主総会にて上記①のご承認をいただき、上記①に係る定款の一部変更の効力が発生しますと、対象者は会社法の規定する種類株式発行会社となること、上記②に係る定款の一部変更の効力を生じさせるためには、会社法第 111 条第 2 項第 1 号に基づき、上記②の承認に係る決議に加えて、株式の内容として全部取得条項が付される対象者の普通株式を所有する株主を構成員とする種類株主総会（以下「本種類株主総会」といいます。）の決議が必要となるため、当社は、対象者に対し、本臨時株主総会の開催日と同日を開催日とする本種類株主総会の開催を要請する予定です。

当社は、本公開買付けが成立した場合には、対象者の普通株式（但し、対象者が所有する自己株式を除きま

す。)の66.7%以上を所有することとなる予定であり、当社は、本臨時株主総会及び本種類株主総会に上記各議案が上程された場合、当社は、本臨時株主総会及び本種類株主総会において上記各議案に賛成する予定です。

上記の各手続が実行された場合には、対象者の普通株式は全て全部取得条項が付されたうえで、その全て(但し、対象者が所有する自己株式を除きます。)が対象者に取得されることとなり、対象者の株主には当該普通株式の取得の対価として対象者の別個の種類株式が交付されることとなりますが、交付されるべき当該対象者の別個の種類株式の数が1株に満たない端数となる株主に対しては、会社法第234条その他の関係法令の定める手続に従い、当該端数の合計数(合計した数に端数がある場合には、当該端数は切り捨てられます。)に相当する当該対象者の別個の種類株式を売却すること等によって得られる金銭が交付されることとなります。なお、当社は、当該端数の合計数に相当する当該対象者の別個の種類株式の売却の結果、各株主に交付される金銭の額については、本公開買付けにおける対象者の普通株式の1株当たりの買付価格(以下「本公開買付価格」といいます。)に当該各株主が所有していた対象者の普通株式の数を乗じた価格と同一になるよう、対象者に対して要請する予定です。また、全部取得条項が付された普通株式の取得の対価として交付される対象者の別個の種類株式の内容及び数は本日現在未定ですが、かかる株式の数については、当社が対象者の発行済株式の全て(但し、対象者が所有する自己株式を除きます。)を所有することとなるよう、当社以外を対象者の株主で本公開買付けに応募しなかった株主に対して交付する数が1株に満たない端数となるように決定することを対象者に対して要請する予定です。

なお、当社は、原則として平成23年11月中を目途に、本完全子会社化手続を完了させることを予定しております。

本完全子会社化手続に関連する少数株主の権利保護を目的とした会社法上の規定として、(i)上記②の普通株式に全部取得条項を付す旨の定款変更を行うに際しては、会社法第116条及び第117条その他の関係法令の定めに従って、普通株主がその有する普通株式の買取請求を行うことができる旨が定められており、また、(ii)上記③の全部取得条項が付された対象者の普通株式全て(但し、対象者が所有する自己株式を除きます。)の取得が対象者の本臨時株主総会において決議された場合には、会社法第172条その他の関係法令の定めに従って、株主は当該株式の取得の価格の決定の申立てを行うことができる旨が定められています。

なお、当社は、関係法令の改正や関係法令についての当局の解釈、本公開買付け後の当社の株券等所有割合、及び当社以外を対象者の株主による対象者の普通株式の所有状況等によっては、本完全子会社化手続に代えてそれと概ね同等の効果を有する他の方法により対象者の完全子会社化を実施する可能性があり、また、実施時期に変更が生じる可能性もあります。但し、その場合であっても、当社以外を対象者の株主が受け取ることになる対価の額については、本公開買付価格を基準として算定する予定です。この場合における具体的な手続については、対象者と協議のうえ、決定次第、速やかに公表いたします。

#### (5) 上場廃止となる見込み及びその理由

対象者の普通株式は、本日現在、大阪証券取引所市場第二部に上場されておりますが、当社は、本公開買付けにおいて買付予定数の上限を設定しておらず、本公開買付けの結果次第では、大阪証券取引所の上場廃止基準に従い、対象者の普通株式は所定の手続を経て上場廃止となる可能性があります。また、本公開買付けの成立時点で当該基準に該当しない場合でも、上記「(4)本公開買付け後の組織再編等の方針(いわゆる二段階買収に関する事項)」に記載のとおり、当社は、本完全子会社化手続により対象者を完全子会社化することを企図しておりますので、その場合には大阪証券取引所の上場廃止基準に従い、対象者の普通株式は所定の手続を経て上場廃止となります。なお、対象者の普通株式の上場廃止後は、対象者の普通株式を大阪証券取引所において取引することはできなくなります。

#### (6) 公開買付者と対象者の株主との間における公開買付けへの応募に係る重要な合意に関する事項

当社は創業家株主との間で、平成23年4月21日付で、それぞれが所有する対象者の普通株式の全部(合計2,467,200株、所有割合:38.23%)について本公開買付けに応募する旨の本公開買付応募契約を締結しております。本公開買付応募契約において、(i)創業家株主は、対象者の取締役会をして、本定時株主総会において、当社の指定する取締役候補者及び監査役候補者を対象者の取締役及び監査役に選任する旨の役員選任議案を上程させる旨、(ii)創業家株主は、本公開買付けが成立し、当該議案が本定時株主総会に上程されたとき

には、当該議案に対して賛成の議決権を行使すること、その他本定時株主総会における全ての議決権を当社の指示に従い行使する旨、並びに、(iii) 対象者の取締役会長である西本晴男氏は、本公開買付けが成立した場合、速やかに対象者の取締役を辞任する旨を合意しています。

## 2. 買付け等の概要

### (1) 対象者の概要

① 名 称	株式会社エルクコーポレーション	
② 所 在 地	大阪市中央区東高麗橋1番15号	
③ 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 松本 啓二	
④ 事 業 内 容	医療関連用品及び医療機器の販売・製造	
⑤ 資 本 金	2,533,499,200円	
⑥ 設 立 年 月 日	昭和31年5月21日	
⑦ 大株主及び持株比率 (平成22年9月30日現在)	西本不動産株式会社	20.80%
	西本 晴男	10.66%
	エルクコーポレーション取引先持株会	4.83%
	ケアストリームヘルス株式会社	3.66%
	西本 保夫	2.36%
	西本 愛子	2.33%
	竹田 和平	2.33%
	株式会社りそな銀行	2.28%
	日本生命保険相互会社	2.23%
	西本 延子	1.76%
⑧ 上場会社と対象者の関係		
資 本 関 係	該当事項はありません。	
人 的 関 係	該当事項はありません。	
取 引 関 係	当社及び当社の関係会社は対象者との間で、対象者に対するデジタルX線機器等の製品の販売取引、及び対象者からの血圧計等の製品の仕入取引を行っております。	
関 連 当 事 者 へ の 該 当 状 況	該当事項はありません。	

### (2) 日程等

#### ① 日程

取 締 役 会 決 議	平成23年4月21日(木曜日)
公 開 買 付 開 始 告 告 日	平成23年4月22日(金曜日) 電子公告を行い、その旨を日本経済新聞に掲載します。 (電子公告アドレス <a href="http://info.edinet-fsa.go.jp/">http://info.edinet-fsa.go.jp/</a> )
公 開 買 付 届 出 書 提 出 日	平成23年4月22日(金曜日)

#### ② 届出当初の買付け等の期間

平成23年4月22日(金曜日)から平成23年6月8日(水曜日)まで(30営業日)

③ 対象者の請求に基づく延長の可能性

該当事項はありません。

(3) 買付け等の価格

普通株式1株につき、金670円

(4) 買付け等の価格の算定根拠等

① 算定の基礎

当社は、本公開買付け価格を決定するにあたり、当社及び対象者から独立した第三者算定機関としてのフィナンシャル・アドバイザーであるGCAサヴィアン株式会社（以下「GCA」といいます。）に本公開買付け価格の決定の参考とするために対象者の株式価値の評価を依頼しました。GCAは、ディスカунテッド・キャッシュ・フロー法（以下「DCF法」といいます。）、市場株価法及び類似取引事例法の各手法を用いて対象者の株式価値の算定（以下「本算定」といいます。）を行い、当社は平成23年4月20日にGCAから「株式価値算定書」（以下「本算定書（GCA）」といいます。）の提出を受けております（なお、当社は、本公開買付け価格の公正性に関する評価（フェアネス・オピニオン）を取得していません）。上記各手法において算定された、対象者株式1株当たりの価値の範囲は以下のとおりです。

DCF法	611円～763円
市場株価法	388円～391円
類似取引事例法	648円～686円

DCF法では、対象者から提供を受けた事業計画、対象者へのマネジメント・インタビュー及び直近までの業績の動向等に基づき、対象者が将来生み出すと見込まれるフリー・キャッシュ・フローを一定の割引率で現在価値に割り引いて企業価値及び株式価値を分析し、1株当たりの株式価値の範囲を算定しております。

市場株価法では、平成23年4月20日を基準日として、大阪証券取引所市場第二部における対象者株式の基準日終値、直近1ヶ月間、直近3ヶ月間及び直近6ヶ月間の各期間における単純平均株価（終値）（それぞれ、388円、388円、391円、388円）を基に、1株当たりの株式価値の範囲を算定しております。

類似取引事例法では、過去1年間に実施された他社株公開買付けのうち、本公開買付けと類似性の高い事例について、買付け価格と公開買付けの公表日の前営業日の株価（終値）、公表日の前営業日から遡る過去1ヶ月間の終値の単純平均値、同過去3ヶ月間の終値の単純平均値、同過去6ヶ月間の終値の単純平均値を比較し、その平均的なプレミアムにより、1株当たりの株式価値の範囲を算定しております。

なお、GCAは本算定において、平成23年4月21日付で対象者より公表された「業績予想の修正並びに平成23年3月期及び9月期配当に関するお知らせ」記載の平成23年3月期の通期業績予想の内容を予め考慮したうえで、評価を行っています。

当社は、本算定書（GCA）の内容を参考に、当社において実施した買収監査（デュー・ディリジェンス）の結果、対象者株式の市場株価の動向、及び応募株数の見通し等を総合的に勘案し、創業家株主及び対象者との協議・交渉を経て、本公開買付け価格を1株当たり670円とすることを決定いたしました。

本公開買付け価格670円は、当社による本公開買付けの開始についての公表日の前営業日である平成23年4月20日の大阪証券取引所市場第二部における対象者株式の普通取引終値の388円に対して72.68%（小数点以下第三位を四捨五入。以下本項の%の数値において同じです。）、平成23年4月20日までの過去1ヶ月間の普通取引終値の単純平均値388円（小数点以下を四捨五入。以下本項の円の数値において同じです。）に対して72.68%、平成23年4月20日までの過去3ヶ月間の普通取引終値の単純平均値391円に対して71.36%、平成23年4月20日までの過去6ヶ月間の普通取引終値の単純平均値388円に対して72.68%のプレミアムをそれぞれ加えた金額になります。

## ② 算定の経緯

近年の医療業界は、医療制度改革や外部環境の変化等により、事業機会の消失や競争激化が生じる可能性があり、当社は、医療事業の経営は、不透明な環境下にあると考えております。

このような状況において、当社及び対象者は、平成 22 年 9 月頃より、両社の企業価値向上のための諸施策について協議・検討を重ねてまいりました。その結果、当社及び対象者は、現在の厳しい業界環境下において、両社の事業のさらなる成長を実現するためには、当社が対象者を完全子会社化し、資本関係を強化するとともに、相互の経営リソースを活用した強固な協業体制を早期に構築することが、両社の企業価値向上にとって有益であると判断するに至り、当社は、平成 23 年 4 月 21 日開催の当社取締役会において本公開買付けの実施を決定し、以下の経緯により、本公開買付け価格を決定いたしました。

### (i) 算定の際に意見を聴取した第三者の名称

当社は、本公開買付け価格を決定するにあたり、当社及び対象者から独立した第三者算定機関としてのフィナンシャル・アドバイザーである GCA に本公開買付け価格の決定の参考とするために対象者の株式価値の評価を依頼し、GCA より、本算定書（GCA）を平成 23 年 4 月 20 日に取得しております。

### (ii) 当該意見の概要

GCA は、DCF 法、市場株価法及び類似取引事例法の各手法を用いて対象者の株式価値の算定を行っております。上記各手法において算定された、対象者株式 1 株当たりの価値の範囲は以下のとおりです。

DCF 法	611 円～763 円
市場株価法	388 円～391 円
類似取引事例法	648 円～686 円

### (iii) 当該意見を踏まえて買付け価格を決定するに至った経緯

当社は、本算定書（GCA）の内容を参考に、当社において実施した買収監査（デュー・ディリジェンス）の結果、対象者株式の市場株価の動向、及び応募株数の見通し等を総合的に勘案し、かつ、創業家株主及び対象者との協議・交渉の結果を踏まえ、最終的に平成 23 年 4 月 21 日開催の取締役会において、本公開買付け価格を 1 株当たり 670 円とすることを決定いたしました（なお、当社は、本公開買付け価格の公正性に関する評価（フェアネス・オピニオン）を取得しておりません）。

一方、対象者によれば、対象者の取締役会は、本公開買付けの妥当性を検討するにあたって、当社及び対象者から独立した第三者算定機関であるデロイトトーマツ F A S 株式会社（以下「トーマツ」といいます。）を選任し、本公開買付け価格の公正性・妥当性を判断するための基礎資料として、トーマツに対象者普通株式の株式価値の算定を依頼し、平成 23 年 4 月 20 日付でトーマツより株式価値算定書を取得したとのことです。また、本公開買付けに関する対象者の取締役会の意思決定の公正性及び適正性を担保するために、弁護士法人北浜法律事務所から必要な法的助言を受けたとのことです。なお、対象者は、トーマツから本公開買付け価格の公正性に関する意見書（フェアネス・オピニオン）は取得していないとのことです。トーマツによる対象者の株式価値の算定結果は以下とのことです。

トーマツは、対象者の取締役会から事業の現状及び対象者作成の将来の事業計画（以下「対象者事業計画」といいます。）等の資料を取得して説明を受け、それらの情報を踏まえて、一定の前提及び条件のもとで対象者の株式価値を算定したとのことです。トーマツの株式価値算定書では、対象者が継続企業であるとの前提のもと、市場株価法、類似会社比較法及び DCF 法を用いて対象者の株式価値を算定したとのことです。

なお、トーマツは当該算定において、平成 23 年 4 月 21 日付で対象者より公表された「業績予想の修正並びに平成 23 年 3 月期及び 9 月期配当に関するお知らせ」記載の平成 23 年 3 月期

の通期業績予想の内容を予め考慮したうえで、評価を行っているとのことです。

市場株価法では、評価基準日を平成 23 年 4 月 20 日として、最近における株価及び取引量に鑑み、対象者普通株式の大阪証券取引所市場第二部における評価基準日までの 1 ヶ月、3 ヶ月及び 6 ヶ月における株価の出来高加重平均株価（1 ヶ月：406 円、3 ヶ月：397 円、6 ヶ月：391 円）を分析したうえで、対象者普通株式の 1 株当たりの株式価値を 391 円～406 円と算定したとのことです。

類似会社比較法では、上場類似企業の各種比率を分析したうえで、対象者普通株式の 1 株当たりの株式価値を 361 円～483 円と算定したとのことです。

DCF 法では、平成 22 年 12 月 31 日時点における対象者事業計画を基礎として算定した将来キャッシュフローを、一定の割引率で現在価値に割り引くことによって企業価値を評価し、対象者普通株式の 1 株当たりの株式価値を 594 円～690 円と算定したとのことです。

なお、トーマツは、当社及び対象者の関連当事者には該当せず、本公開買付けに関して記載すべき重要な利害関係を有していないとのことです。

そして、対象者によれば、対象者の取締役会は、平成 23 年 4 月 21 日付で、トーマツから取得した平成 23 年 4 月 20 日付の株式価値算定書の内容、弁護士法人北浜法律事務所の法的助言等に基づき、本完全子会社化手続を含めた一連の手続及び本公開買付け価格その他の本公開買付けの諸条件の妥当性について慎重に協議・検討した結果、本公開買付けは、対象者の財務状況、事業環境等に照らして対象者の経営基盤を強化し、今後の中長期的な企業価値の向上に資するものであるとともに、対象者の株主に対して合理的なプレミアムを付した価格での株式売却の機会を提供するものであると判断したことから、本公開買付けへ賛同の意を表明し、かつ、対象者の株主に対し、本公開買付けに応募することを勧める旨の決議をしたとのことです。

なお、対象者によれば、本公開買付けに関する意見の内容に関する上記決議は、平成 23 年 4 月 21 日開催の対象者の取締役会において、決議に参加した取締役（創業家株主として当社との間で本公開買付けに応募する旨の本公開買付け応募契約を締結している西本晴男氏は、本公開買付けに関する意見の内容に関する上記決議につき特別利害関係を有する取締役（会社法第 369 条第 2 項）に該当する可能性があるため、上記決議に係る審議及び決議には参加していませんが、西本晴男氏を除く対象者の全ての取締役が決議に参加したとのことです。）の全員一致により行われたとのことです。また、上記の取締役会には、対象者の全ての監査役が審議に参加し、いずれも、対象者の取締役会による本公開買付けに関する意見の内容につき異議がない旨の意見を述べたとのことです。

### ③ 算定機関との関係

当社のフィナンシャル・アドバイザー（算定機関）である GCA は、当社の関連当事者には該当せず、本公開買付けに関して重要な利害関係を有しません。

#### (5) 買付予定の株券等の数

買付予定数	買付予定数の下限	買付予定数の上限
5,665,372 株	3,778,900 株	一株

(注 1) 応募株券等の数の合計が買付予定数の下限 (3,778,900 株) に満たない場合は、応募株券等の全部の買付け等を行いません。応募株券等の数の合計が買付予定数の下限 (3,778,900 株) 以上の場合は、応募株券等の全部の買付け等を行います。

(注 2) 本公開買付けを通じて、対象者が所有する自己株式を取得する予定はありません。

(注 3) 本公開買付けにおいては、買付予定数の上限を設定していませんので、買付予定数は本公開買付けにより公開買付け者が取得する対象者の株券等の最大数である 5,665,372 株を記載しております。なお、当該最大数は、対象者の自己株券買付状況報告書（平成 23 年 4 月 1 日提出）に記載された平成 23 年 3 月 31 日現在の対象者の普通株式の発行済株式総数 (6,453,689 株) から、同報告書に記載された

平成 23 年 3 月 31 日現在対象者が所有する自己株式数 (788,317 株) を控除した株式数となります。

(注 4) 買付予定数の下限は、対象者の自己株券買付状況報告書 (平成 23 年 4 月 1 日提出) に記載された平成 23 年 3 月 31 日現在の対象者の普通株式の発行済株式総数 (6,453,689 株) から、同報告書に記載された平成 23 年 3 月 31 日現在対象者が所有する自己株式数 (788,317 株) を控除した株式数 (5,665,372 株) の 66.7%に相当する株式数 (3,778,804 株 (小数点以下切り上げ。)) から単元未満に係る数を切り上げた株式数である 3,778,900 株を記載しております。

(注 5) 単元未満株式についても、本公開買付けの対象となります。なお、会社法に従って株主による単元未満株式買取請求権が行使された場合には、対象者は法令の手に従い本公開買付けの買付け等の期間 (以下「公開買付け期間」といいます。) 中に自己の株式を買い取ることがあります。この場合、対象者は法令及び対象者の株式取扱規程に定める価格にて当該株式を買い取ります。

#### (6) 買付け等による株券等所有割合の異動

買付け等前における公開買付け者の所有株券等に係る議決権の数	一個	(買付け等前における株券等所有割合 —%)
買付け等前における特別関係者の所有株券等に係る議決権の数	一個	(買付け等前における株券等所有割合 —%)
買付予定の株券等に係る議決権の数	56,653 個	(買付け等後における株券等所有割合 100.00%)
対象者の総株主等の議決権の数	56,649 個	

(注 1) 「買付予定の株券等に係る議決権の数」は、本公開買付けにおける買付予定数 (5,665,372 株) に係る議決権の数です。

(注 2) 「対象者の総株主等の議決権の数」は、対象者の第 55 期第 3 四半期報告書 (平成 23 年 2 月 14 日提出) に記載の総株主の議決権の数です。但し、本公開買付けにおいては、対象者の発行している全ての株式 (但し、対象者が所有する自己株式を除きます。) を買付け等の対象としているため、「買付け等前における株券等所有割合」及び「買付け等後における株券等所有割合」の計算においては、対象者の自己株券買付状況報告書 (平成 23 年 4 月 1 日提出) に記載された平成 23 年 3 月 31 日現在の対象者の普通株式の発行済株式総数 (6,453,689 株) から、同報告書に記載された対象者が同日現在所有する自己株式数 (788,317 株) を控除した株式数 (5,665,372 株) に係る議決権の数 56,653 個を分母として計算しております (なお、対象者の単元株式数は 100 株です。)

#### (7) 買付代金 3,795,799,240 円

(注) 買付代金は、本公開買付けにおける買付予定数 (5,665,372 株) に本公開買付け価格 (670 円) を乗じた金額です。

#### (8) 決済の方法

① 買付け等の決済をする証券会社・銀行等の名称及び本店の所在地  
SMB C 日興証券株式会社 東京都千代田区丸の内三丁目 3 番 1 号

② 決済の開始日  
平成 23 年 6 月 15 日 (水曜日)

#### ③ 決済の方法

公開買付け期間終了後遅滞なく、本公開買付けによる買付け等の通知書を本公開買付けに係る株券等の買付け等の申込みに対する承諾又は売付け等の申込みをされる方 (以下「応募株主等」といいます。) (外国の居住者である株主 (法人株主を含みます。以下「外国人株主等」といいます。) の場合にはその日本国内の常任代理人 (以下「常任代理人」といいます。)) の住所又は所在地宛に郵送します。

買付けは、現金にて行います。買付けられた株券等に係る売却代金は、応募株主等（外国人株主等の場合にはその常任代理人）の指示により、決済の開始日以後遅滞なく、下記（11）に記載する公開買付代理人から応募株主等（外国人株主等の場合にはその常任代理人）の指定した場所へ送金します。

#### ④ 株券等の返還方法

下記「(9) その他買付け等の条件及び方法」の「①法第 27 条の 13 第 4 項各号に掲げる条件の有無及び内容」又は「② 公開買付けの撤回等の条件の有無、その内容及び撤回等の開示の方法」に記載の条件に基づき応募株券等の全部を買い付けないこととなった場合には、返還することが必要な株券等を、公開買付期間の末日の翌々営業日（本公開買付けの撤回等を行った場合は撤回等を行った日）に、応募株主等が公開買付代理人に開設した応募株主等名義の口座上で、応募が行われた時の状態（応募が行われた時の状態とは、本公開買付けへの応募注文の執行が解除された状態を意味します。）に戻します。

### (9) その他買付け等の条件及び方法

#### ① 法第 27 条の 13 第 4 項各号に掲げる条件の有無及び内容

応募株券等の数の合計が買付予定数の下限（3,778,900 株）に満たない場合は、応募株券等の全部の買付け等を行いません。応募株券等の数の合計が買付予定数の下限（3,778,900 株）以上の場合には、応募株券等の全部の買付け等を行います。

#### ② 公開買付けの撤回等の条件の有無、その内容及び撤回等の開示の方法

金融商品取引法施行令（昭和 40 年政令第 321 号。その後の改正を含みます。以下「令」といいます。）第 14 条第 1 項第 1 号イ乃至リ及びワ乃至ソ、第 2 号、第 3 号イ乃至チ及びヌ、第 4 号、第 5 号、並びに同条第 2 項第 3 号乃至第 6 号に定める事項のいずれかが生じた場合は、本公開買付けの撤回等を行うことがあります。

なお、令第 14 条第 1 項第 3 号ヌについては、同号イからリまでに掲げる事由に準ずる事項として、①対象者が過去に提出した法定開示書類について、重要な事項につき虚偽の記載があり、又は記載すべき重要な事項の記載が欠けていることが判明した場合、②公開買付開始公告を行った日以後に発生した事情により対象者の重要な契約が終了した場合、及び③対象者の重要な子会社に令第 14 条第 1 項第 3 号イからリまでに掲げる事実が発生した場合をいいます。

撤回等を行おうとする場合は、電子公告を行いその旨を日本経済新聞に掲載します。但し、公開買付期間の末日までに公告を行うことが困難な場合は、発行者以外の者による株券等の公開買付けの開示に関する内閣府令（平成 2 年大蔵省令第 38 号。その後の改正を含みます。以下「府令」といいます。）第 20 条に規定する方法により公表し、その後直ちに公告を行います。

#### ③ 買付け等の価格の引下げの条件の有無、その内容及び引下げの開示の方法

対象者が公開買付期間中に、法第 27 条の 6 第 1 項第 1 号の規定により令第 13 条第 1 項に定める行為を行った場合は、府令第 19 条第 1 項の規定に定める基準に従い、買付け等の価格の引下げを行うことがあります。買付け等の価格の引下げを行おうとする場合は、電子公告を行いその旨を日本経済新聞に掲載します。但し、公開買付期間の末日までに公告を行うことが困難な場合には、府令第 20 条に規定する方法により公表し、その後直ちに公告を行います。

買付け等の価格の引下げがなされた場合、当該公告が行われた日以前の応募株券等についても、引下げ後の買付け等の価格により買付けを行います。

#### ④ 応募株主等の契約の解除権についての事項

応募株主等は、公開買付期間中、いつでも本公開買付けに係る契約を解除することができます。契約の解除をする場合は、公開買付期間の末日の 15 時 30 分までに、下記に指定する者に本公開買付けに係る契約の解除を行う旨の書面（以下「解除書面」といいます。）を交付又は送付してください（但し、各営業店によって営業時間が異なります。事前にご利用になられる営業店の営業時間等をご確認のうえ、

お手続きください。)。但し、送付の場合は、解除書面が公開買付期間の末日の15時30分までに、下記に指定する者に到達することを条件とします（但し、各営業店によって営業時間が異なります。事前にご利用になれる営業店の営業時間等をご確認のうえ、お手続きください。）。

解除書面を受領する権限を有する者

SMB C日興証券株式会社 東京都千代田区丸の内三丁目3番1号

（その他のSMB C日興証券株式会社国内各営業店）

なお、公開買付者は、応募株主等による契約の解除に伴う損害賠償又は違約金の支払いを応募株主等に請求することはありません。

#### ⑤ 買付条件等の変更をした場合の開示の方法

公開買付者は、公開買付期間中、法第27条の6及び令第13条により禁止される場合を除き、買付条件等の変更を行うことがあります。買付条件等の変更を行おうとする場合は、その変更等の内容につき電子公告を行い、その旨を日本経済新聞に掲載します。但し、公開買付期間の末日までに公告を行うことが困難な場合は、府令第20条に規定する方法により公表し、その後直ちに公告を行います。買付条件等の変更がなされた場合、当該公告が行われた日以前の応募株券等についても、変更後の買付条件等により買付けを行います。

#### ⑥ 訂正届出書を提出した場合の開示の方法

訂正届出書を関東財務局長に提出した場合は、直ちに、訂正届出書に記載した内容のうち、公開買付開始公告に記載した内容に係るものを、府令第20条に規定する方法により公表します。また、直ちに公開買付説明書を訂正し、かつ、既に公開買付説明書を交付している応募株主等に対しては、訂正した公開買付説明書を交付して訂正します。但し、訂正の範囲が小範囲に止まる場合には、訂正の理由、訂正した事項及び訂正後の内容を記載した書面を作成し、その書面を応募株主等に交付する方法により訂正します。

#### ⑦ 公開買付けの結果の開示の方法

本公開買付けの結果については、公開買付期間の末日の翌日に、令第9条の4及び府令第30条の2に規定する方法により公表します。

#### ⑧ その他

本公開買付けは、直接間接を問わず、米国内において又は米国に向けて行われるものではなく、また米国の郵便その他の州際通商又は国際通商の方法・手段（電話、テレックス、ファクシミリ、電子メール、インターネット通信を含みますが、これらに限りません。）を使用して行われるものではなく、更に米国の証券取引所施設を通じて行われるものでもありません。上記方法・手段により、若しくは上記施設を通じて、又は米国内から本公開買付けに応募することはできません。

また、本公開買付けに係る公開買付届出書又は関連する買付書類は、米国内において若しくは米国に向けて又は米国内から、郵送その他の方法によって送付又は配布されるものではなく、かかる送付又は配布を行うことはできません。上記制限に直接又は間接に違反する本公開買付けへの応募はお受けいたしません。

応募株主等（外国人株主等の場合はその常任代理人）はそれぞれ、以下の表明・保証を行うことを要求されます。

応募株主等が応募の時点及び公開買付応募申込書送付の時点のいずれにおいても、米国に所在していないこと、応募株主等が本公開買付けに関するいかなる情報又は買付けに関する書類を、米国内において、若しくは米国に向けて、又は米国内からこれを受領したり送付したりしていないこと、買付け又は公開買付応募申込書の署名乃至交付に関して、直接間接を問わず、米国の郵便その他の州際通商若しくは国際通商の方法・手段（電話、テレックス、ファクシミリ、電子メール、インターネット通信を含みますが、これらに限りません。）又は米国内の証券取引所施設を使用していないこと、及び、他の者の

裁量権のない代理人又は受託者・受任者として行動している者ではないこと（当該他の者が買付けに関する全ての指示を米国外から与えている場合を除きます。）。

(10) 公開買付開始公告日

平成 23 年 4 月 22 日(金曜日)

(11) 公開買付代理人

SMB C 日興証券株式会社 東京都千代田区丸の内三丁目 3 番 1 号

3. 公開買付け後の方針等及び今後の見通し

(1) 本公開買付け後の方針等

本公開買付け後の方針等については、上記「1. 買付け等の目的等」の「(3) 本公開買付け後の経営方針」、  
「(4) 本公開買付けの後の組織再編等の方針（いわゆる二段階買収に関する事項）」及び「(5) 上場廃止となる見込み及びその理由」の記載をご参照ください。

(2) 今後の業績への影響の見通し

本公開買付けによる今期業績予想に与える影響は現在精査中であり、今後、業績予想修正の必要性及び公表すべき事項が生じた場合には速やかに開示いたします。

4. その他

(1) 公開買付者と対象者又はその役員との間の合意の有無及び内容

① 公開買付者と対象者の役員との間の合意の有無及び内容

当社は、上記「1. 買付け等の目的等」「(6) 公開買付者と対象者の株主との間における公開買付けへの応募に係る重要な合意に関する事項」に記載のとおり、対象者の取締役会長である西本晴男氏を含む創業家株主との間で、平成 23 年 4 月 21 日付で、本公開買付応募契約を締結しております。本公開買付応募契約において、西本晴男氏は、(i) その所有する対象者の普通株式の全部（合計 687,900 株、所有割合：10.66%）を本公開買付けに応募する旨、(ii) 対象者の取締役会をして、本定時株主総会において、当社の指定する取締役候補者及び監査役候補者を対象者の取締役及び監査役に選任する旨の役員選任議案を上程させる旨、(iii) 本公開買付けが成立し、当該議案が本定時株主総会に上程されたときには、当該議案に対して賛成の議決権を行使すること、その他本定時株主総会における全ての議決権を当社の指示に従い行使する旨、並びに、(iv) 本公開買付けが成立した場合、速やかに対象者の取締役を辞任する旨を合意しています。

② 公開買付者と対象者との間の合意の有無及び内容

対象者によれば、対象者の取締役会は、平成 23 年 4 月 21 日付で、トーマツから取得した平成 23 年 4 月 20 日付の株式価値算定書の内容、弁護士法人北浜法律事務所の法的助言等に基づき、本完全子会社化手続を含めた一連の手続及び本公開買付価格その他の本公開買付けの諸条件の妥当性について慎重に協議・検討した結果、本公開買付けは、対象者の財務状況、事業環境等に照らして対象者の経営基盤を強化し、今後の中長期的な企業価値の向上に資するものであるとともに、対象者の株主に対して合理的なプレミアムを付した価格での株式売却の機会を提供するものであると判断したことから、本公開買付けへ賛同の意を表明し、かつ、対象者の株主に対し、本公開買付けに応募することを勧める旨の決議をしたとのことです。

なお、対象者によれば、本公開買付けに関する意見の内容に関する上記決議は、平成 23 年 4 月 21 日開催の対象者の取締役会において、決議に参加した取締役（創業家株主として当社との間で本公開買付けに応募する旨の本公開買付応募契約を締結している西本晴男氏は、本公開買付けに関する意見の内容に関する上記決議につき特別利害関係を有する取締役（会社法第 369 条第 2 項）に該当する可能性があるため、上記決議に係る審議及び決議には参加しておりませんが、西本晴男氏を除く対象者の全ての取

締役が決議に参加したとのことです。)の全員一致により行われたとのことです。また、上記の取締役会には、対象者の全ての監査役が審議に参加し、いずれも、対象者の取締役会による本公開買付けに関する意見の内容につき異議がない旨の意見を述べたとのことです。

また、当社は、対象者との間で、本定時株主総会において、対象者が当社の指定する取締役候補者及び監査役候補者を対象者の取締役及び監査役に選任する旨の役員選任議案を上程することを合意しています。

(2) 投資者が買付け等への応募の是非を判断するために必要と判断されるその他の情報

対象者は、平成 23 年 4 月 21 日に「業績予想の修正並びに平成 23 年 3 月期及び 9 月期配当に関するお知らせ」を公表しております。当該公表の概要は以下のとおりです。なお、以下の公表内容の概要は、対象者が公表した内容を一部抜粋したものであり、当社はその正確性及び真実性について独自に検証し得る立場になく、また実際にかかる検証を行っておりません。詳細につきましては、当該公表の内容をご参照ください。

i 通期業績予想の修正

平成 23 年 3 月期通期業績予想数値の修正（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

（連結）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成 22 年 5 月 14 日発表)	百万円 25,000	百万円 220	百万円 210	百万円 150	円 銭 26.21
今回修正予想(B)	21,412	71	97	24	4.34
増減額(B-A)	△3,587	△148	△112	△125	—
増減率 (%)	△14.3	△67.4	△53.7	△83.4	—
(ご参考)前期実績 (平成 22 年 3 月期)	24,296	219	196	183	32.03

（個別）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成 22 年 5 月 14 日発表)	百万円 24,600	百万円 160	百万円 160	百万円 110	円 銭 19.22
今回修正予想(B)	20,901	△18	16	△45	△7.89
増減額(B-A)	△3,698	△178	△143	△155	—
増減率 (%)	△15.0	—	△89.6	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 22 年 3 月期)	23,873	191	182	175	30.58

ii 平成 23 年 3 月期の期末配当及び平成 23 年 9 月期の中間配当について

平成 23 年 3 月期の期末配当金につきましては、平成 23 年 4 月 21 日開催の取締役会において、平成 23 年 3 月期の配当予想を 1 株当たり 10 円のまま維持すること及び同年 9 月期の中間配当については、実施しないことを決議したとのことです。なお、対象者は従前より、年 1 回配当を配当回数に関する基本方針としているとのことです。

以 上